

V 日高振興局

1. 印南町農業士会が有田地域で研修会を実施

7月20日、印南町農業士会（会長：片山真吾氏）は、有田地域の特徴的な農業の取組について学ぶため、研修会を実施した。

まずは、あらぎ島（有田川町三田）を訪れた。蓮や芭蕉のある高台からあらぎ島のすばらしい景観を望みながら、あらぎ島景観保全保存会の西林輝昌代表から会の取組や地域のことについて説明を受けた後、意見交換を行った。

次に、株式会社かんじゃ山椒園（有田川町宮川）を訪れ、まず、「田舎カフェかんじゃ」にてランチをいただいた。どれも山椒を活かした料理で、会員らは山椒が意外と様々な食材と相性がよいということに驚いた。

続けて永岡冬樹代表から、会社の取組内容や山椒産地の状況などをうかがった。高齢化により山椒の生産者が減少する中、地域のために若い人の働く場所の確保に取り組んでいること、高品質の山椒を作ることで、ヨーロッパなど世界を相手にできること等、興味深いお話を聞くことができた。また、会員からも様々な質問があり、活発な意見交換が行われた。

その後、有田振興局に移動し、農業生産法人株式会社Citrusの佐々木茂明代表から、会社設立の動機や取組等について紹介いただいた。パワーポイントを用いたわかりやすく興味深い内容で、会員らも熱心に聞き入った。

新型コロナウイルスの影響で2年ぶりの実施となったが、充実した研修会となった。



かんじゃ山椒園



(株) Citrus の取組

2. 日高管内のトビイロウンカ発生状況調査を実施

トビイロウンカは6月頃から中国南部より飛来し、水田に着地した後、イネの株元に住み着く。その後、盛夏から秋口にかけて水田内で急激に増殖し、イネの株元を吸汁することで被害が発生し、ひどい場合は「坪枯れ」を引き起こす。

県では、昨年と一昨年に多発したことに加え、令和3年は飛来時期が平年に比べ早く、虫数も多い傾向で推移していることから、今秋も「坪枯れ」の発生が懸念されていた。

そこで、7月28日、日高野菜花き技術者協議会（会長：大野隆之氏、構成員：JA紀州、JAグループ和歌山、暖地園芸センター、日高振興局）では、トビイロウンカ発生状況を的確に把握し早期の防除につなげるため、会員10名が調査を実施した（写真1）。

今回の調査では、各市町3～4園地、日高地域で合計24園地の水田を選定し、1園地25株について、イネの株元を2～3回たたくことでウンカを虫見板にはたき落とし、虫数をカウントした。

調査の結果、トビイロウンカは御坊市の1園地で確認されたのみで、日高地域全体の1園地平均虫数は0.04頭となり、ほとんど発生が見られなかった（表1）。

本害虫は8月以降の発生が懸念されることから、調査を継続し早期の防除対策につなげていく。

表1 日高地域トビイロウンカ発生状況
(調査日:令和3年7月28日)

調査市町	調査園地数 (園地)	トビイロウンカ ※ 平均成虫・幼虫数(頭)
御坊市	4	0.25
美浜町	4	0.00
日高町	4	0.00
由良町	3	0.00
印南町	3	0.00
みなべ町	3	0.00
日高川町	3	0.00
日高地域	24	0.04

※ 25株当たり虫数を示す



写真1 発生状況調査